

客を集める—これはコンサートの企画者・出演者にとっては最大の苦勞かもしれない。何しろ客席ガラガラでは話にならない。知名度や人気で客を呼べる場合はよい。だが至る処で開催される企画数とそれに好みを示して参加できる人口数は一致しない。私も時々行きたいものが同日同時間で、選択を余儀なくされることがある。そして企画者・出演者としては困ったことに実力と集客度は一致しない。ただ顔が広くて集客できる人もいる。それはそれでよいけれど、如何に足を運んでもらうかは実に難しい問題だ。また会場の規模の選択も難しい。この位と見込んだ席数の規模の会場を用意しなければならない。狭すぎてもいけないし広すぎてもいけない。狭いところでは観客を逃すのが惜しい。広いところではせめて座席の 1/3 を埋めなければ恰好がつかないので集客を委ねられた者はつらい。私はコンサートに密やかに一人で行くせいか、比較的人気の高い有名なプロにさえ集客を促されたことがある。そして会場の客席では付き合いで来ていた他のプロが微笑みかけてくるし、自分の先生のコンサートに足を運んでもらうようにタダ券を勧めてくる人もいる。私は初対面の人とでも平気で話をするし、相手も私を「コンサートに来そうな客」と見込むのだろう。しかし私はそれに慣れっこであるから「この人にはいずれ集客を頼まれそうだな」という勘が働く。けれどそれでその人を嫌ったりしない。集客の働きかけは一向に構わない。何しろ私は自分の興味がないものには行かないし、その分野に興味のない友人を犠牲にする気もない。ただ友人が立てた企画、友人が出演する企画には必ず行くだけである。知人レベルでは選択する。それというのでも付き合いが良すぎた私はそのために一度過労を経験したし、付き合いってもらった友人には楽しんでもらえなかった。友人に気の毒である。そういう訳で私は付き合い参加を大幅に削減した。そしてその分野に共通項のない人は誰も誘わない。また私の友人が企画したものは、やはり付き合いで来てもらって楽しんでもらえなかったら気の毒なので、案内だけ発信して興味があればフォローする程度に留めている。行くのを決めるのはあくまでもその人自身なのだから。

また私は「コンサートのチケットはあげてはならない。必ず売るように。何故ならタダだと行かなくてもいいという気になることもある。自分で買ったものには足を運ぶ」という言葉を聞いたことがあり、一応心に留めている。「うん、これいいかも」と自分に適用して自分が「行こう」と思ったものにはお金を払っていくことに決めている。でも知人のコンサートだと「ご招待」されるので、何とか説明してお金を受け取ってもらおう。知人といえども私は一般人だから。人がタダで行くのには口出ししない。お金の価値観と経済性は人によって違うから。例えば私が音楽の分野で生きていたとして、勉強のために多大なコンサートを聴きたいと願っていたら、また聴く必要があるとしたらご招待は大変ありがたいものになるだろう。したがってこれは今の私が私自身にした取り決めなのである。別にお金が余っていて払おうというのではない。私にとって「お金を払う」という意味は「出演者には真剣勝負をしてもらいたい、聴く方も存分に楽しみたい」という意味である。つまりそこに甘えを存在させてほしくない。逆に言えば「お金を取ってベストを尽くしてください」という応援なのである。

ただ自分のコンサート・チケットを友人・知人に勧める側からしたら心苦しいし招待の範疇は決めにくい。だから出した場合だけ快く受け取ってください。(2012.8.13)